

「東日本大震災・原発事故」から13年を迎えて

2011年3月11日、14時46分に大地震と巨大津波より原発事故も発生させた東日本大震災（以下、3.11という）は、住み慣れた土地を離れなければならないほど、未曾有の被害を拡大させました。また、今年の元日に令和6年能登半島地震が発生し、地震や津波などの被害に見舞われ、多くの住民の皆さんが被災しました。JR東労組は、被災状況に踏まえて支援カンパの取り組みをしましたが、今なお復旧のめどが立っておりません。しかし、珠洲原発建設を住民の反対運動によって阻止したため、原発の被害はありませんでした。その事実は、地球で生きている以上、想定内とされる被害を私たちは見過ごすのか？と問題を投げかけられているようにしか思えません。私たちは、未だに亡くなられた方を想い、地元に戻ることが出来ずに、苦しみながら生活している方々がいることを忘れてはなりません。そして亡くなられた方々と被災された方々にご冥福とお見舞い申し上げます。そして復興に向けて、ご尽力して頂いている方々に感謝申し上げます。

JR東労組は「抵抗とヒューマニズム」の精神を育み、様々な災害などに支援連帯する活動をしてきました。

3.11では千葉県内も多くの被害があり、千葉地本も組合員と共に、支援カンパやボランティア活動を行い物心両面と地域に貢献した活動をしてきました。



また2019年には全国的にも多くの台風被害に見舞われ、千葉県内でも台風15号19号は広範囲に広がり甚大な被害をもたらしました。私たちは、3.11の教訓を踏まえ夏場の気候を考慮し、組合員も自主的に水や食べ物、扇風機やブルーシート、



クーラーボックス等を調達して各事務所に持ち寄り、役員のみならず組合員が自ら支援活動に参加し、被災された地域の皆さまとも連帯して、困難を乗り越えてきました。今、千葉県東方沖やその周辺では、2月26日から地震活動が活発となり、陸側と海側のプレートの境界がゆっくりとずれ動く「スロースリップ」が起き、政府の地震調査委員会からは、M7クラスより大きな地震が起きる可能性もゼロではないとも言われています。

全組合員、そして未加入者の皆さん！災害への備えを家庭では出来ていますか？業務中に災害が発生した場合に備えていますか？災害対策は、「自助」「共助」「公助」が重要ですが、その前提はJR東労組がこれまでの運動で教訓化している、「抵抗とヒューマニズム」の精神を育んだ「助け合い」です。それは「1人では生きられなかった、助からなかった」など、利益重視や差別ではなく同じ目線で手を携えるということでした。

JR東労組は、防災・減災の視点で「3.11」の教訓の議論を通じて、ヒューマニズムを養い、状況に応じて能登半島地震のボランティア活動を実施し、組合員と助け合いのできる方々と共に、鉄道と雇用と職場、生活を守るために奮闘します。

未加入者の皆さん！新生JR東労組に結集して、様々な難局を乗り越えていきましょう！

2024年3月11日
東日本旅客鉄道労働組合
千葉地方本部執行委員会